

しもつけの心

今を生きる心の季刊誌

2018
(平成30年) 50



◎平成30年7月28日発行◎季刊◎通巻第50号◎発行:株式会社井上総合印刷

故郷は温かい。

子どもの頃の思い出がいっぱいつまっている。
うれしかったこと、楽しかったこと、悲しかったことも…。
人は支えあって生きている。
心のふれあいを大切にしたい。
親と子の絆、地域のつながり、人と人とのふれあい
そして地道に取り組んでいる人たちの心の架け橋となり
温もりの話題をお届けします。

連載

「渡良瀬異彩」

特集

甦った廃校「ヒカリノカフェ」

特別
企画

「孝子桜」の子どもたち

特別
企画

君平生誕250年「古墳祭」へ地域の輪

連載

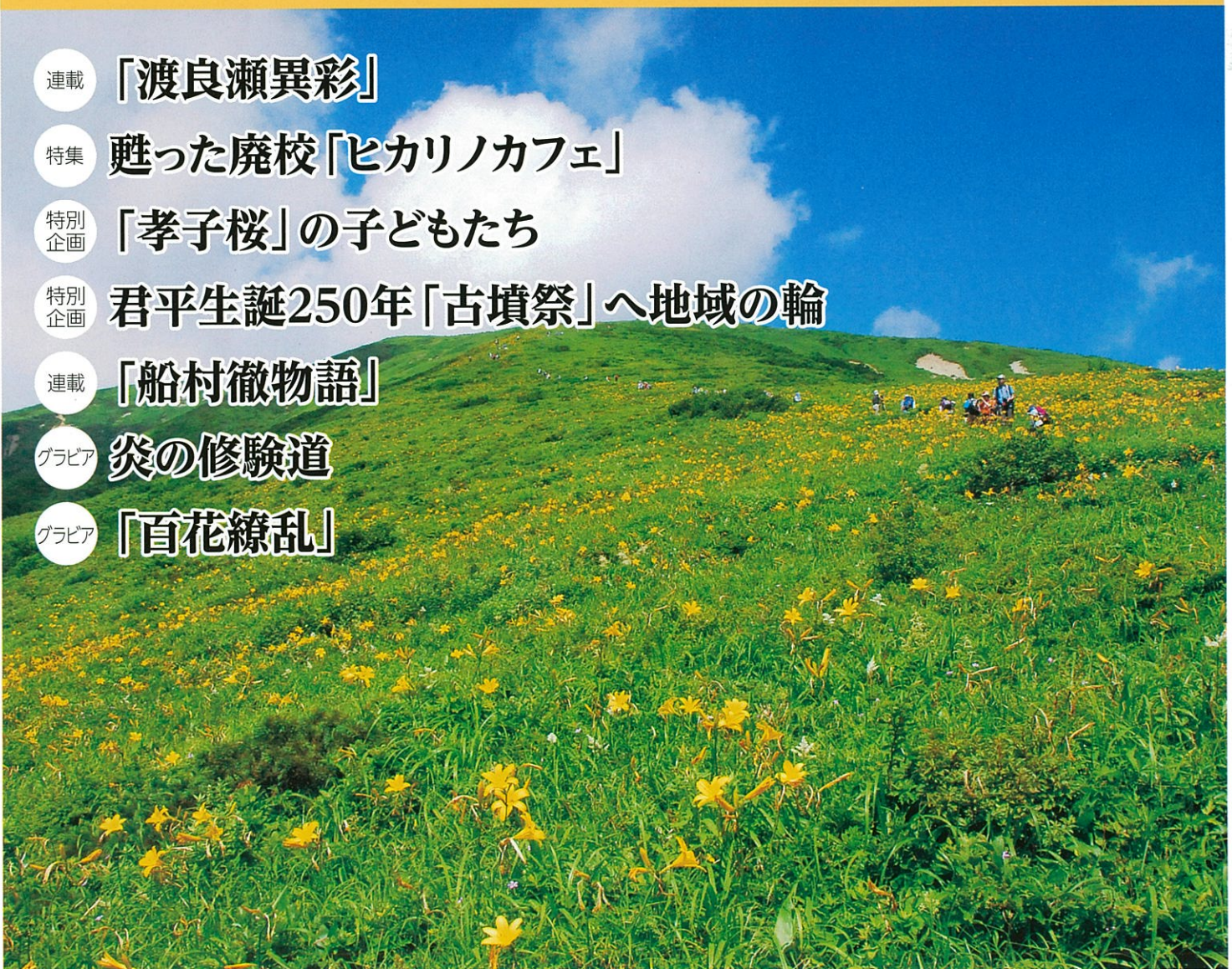
「船村徹物語」

グラビア

炎の修験道

グラビア

「百花繚乱」





毎年正月、宇都宮市指定有形文化財の「旧篠原家住宅」で個展を開いている川中子武保さん



招き猫



福だるま

「あ〜めでたい、めでたいな」、恵比寿・大黒七福神、一ふじ二たか三なすび。縁起ものの福だるま。招福開運招き猫。

思わずふっと笑いが浮かぶ面白く楽しい「ひらがな筆絵」の世界。この絵を制作したのは宇都宮市在住の川中子武保さんだ。

世間では芸術的な書が尊ばれる一方で、筆を手にする人がめっきり減った。そこで川中子さんは考

えた。筆を持つてもらおう機会を作りたいという思案し、幼少の頃から習ってきた書の腕前を生かして書きやすく分かりやすい「ひらがな」を活用して筆絵を描こうと心に決めた。どうせなら誰もが嬉しく楽しい気持ちになるような作品が良いだろうと「恵比寿・大黒」から始まり、「七福神」に発展。次に天狗や福だるま、招き猫を制作、宇都宮の郷土玩具「黄ぶ

な」にも挑戦した。めでたさを追い求めて、ついに「めでたい」が目出鯛を描いては職場の同僚の結婚や新築祝いなど機会あるごとに作品をプレゼントするようになった。皆から大いに好評で、友人のすすめもあって作品展を開

催。今では毎年正月に宇都宮市を代表する旧家の一つ「旧篠原家住



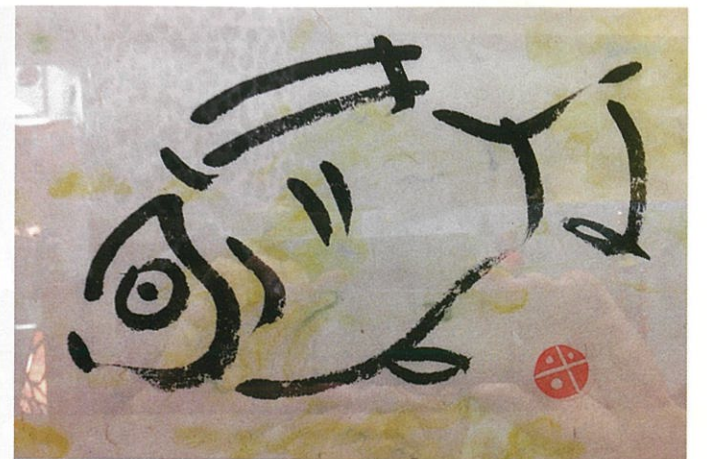
あ〜めでたい、恵比寿・大黒七福神
福だるまに招福開運招き猫



川中子 武保さんが制作
(宇都宮市)



楽しい
「ひらがな筆絵」



宅(国指定重要文化財、宇都宮市指定有形文化財)で目出たい作品展を開くまでになった。
家族連れも訪れたが、白い紙に墨字の筆絵は子供には分かりずらいらしく首をかしげて見ていた。そこで川中子さんは子供目線に合わせて余白部分を切り取り色和紙を貼る手法に転換して、分かりやすく描き、今では小学生も笑顔で楽しみ、リピーターも増えた。
川中子さんの活動範囲は

広い。行きつけの居酒屋や割烹に展示、ポストカードを作って知人や同僚にプレゼントしている。また、宇都宮市内の全私立保育園に園名を入れた招き猫をプレゼントしたところ園児らが面白がって大喜び。さらに宇都宮大学・まなびの森保育園にも招き猫を贈った。ここでも「かわいい」と大人気だったという。

「ひらがな筆絵」を入口に

川中子さんは「ひらがな筆絵」への想いを次のように話している。

毎年正月に「ひらがな筆絵」作品展を開いていますが、何とんでも嬉しいのは小さなリピーターが年々増えていることです。
「この魚の絵には何というひらがなが書かれているか分かるかな？」と質問すると、首をかしげながら「うーん、め：



で・・・た・・・いかなあ」と可愛らしい答えが返ってくるとうれしくなっています。

展示した作品の一部は今も市内の小学校の廊下に飾られ、作品を通して「ひらがな教育」として役立たせていただいています。
私は「ひらがな筆絵」を通して筆の文化、書の文化に親しんでほしいと願っています。最初は市販の筆ペンでいいんです。慣れてきたら半紙に絵を描いてみましょう。身近に「白と黒の世界」を感じられると思います。きっと「ひらがな筆絵」はその入口になるはずで